3 教科指導

【高校教科】	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
国語	①生徒間の学力差に対応する。 ②基礎基本の不足している生徒に徹底して対応する。 ③日本文化の伝統を担う古典の大切さを生徒に理解してもらい取り組ませる。	①シラバスを充実させることで授業進度を生徒に徹底し、予習や復習をしっかり取り組ませる。 ②授業のなかでの基礎基本事項の徹底を図り、反復と小テストを実施する。 ③授業に向けて自ら予習・復習することで古典文化の現代における意義を理解させる。	B	予習・復習等の指導によって、生徒が主体的に取り組む姿勢が定着しつつある。古典の指導は1年次から古文・漢文に親しむ機会を増やし、2・3年次では高校につながる学習習慣を身につけつつあるが、生徒の興味・関心や主体的な学習姿勢を引き出す工夫には今後改善の余地がある。現代文についてもしっかりした読解力を定着する指導が特に必要になっている。新学力観への対応に関しては、引き続きシラバスの充実と実践を図りたい。
地歴公民	①公民的資質を高めるための、時事問題研究の奨励②歴史的事象への関心を高めるための、地域調査研究の奨励③地理的事象への関心を高めるための、環境調査研究の奨励	①夏休み期間を利用したレポート作成をきっかけに、長期的に問題関心を持ち続け、活動実績を形成することができるように細やかに指導する。②研究を発表する場を作り、プレゼンテーション力を相互評価して、切磋琢磨する喜びを感じることができるようにする。	B	作成・発表指導は長期的・持続的におおむね実施できたが、②相互評価を通してさらなる成長を引き出すところまでには至らなかった。意欲的な生徒を核にして、全体的な学ぶ力を養う工夫をしたい。
数学	①数学に対する興味関心を深め、数学という学問の美しさを知る。 ②高校数学の基本内容を確実に理解し、数学的な考え方を身につける。 ③公式等の理解のみにとどまらず、より深い内容の問題にも自主的、積極的に取り組む。 ④難関大学への挑戦、合格にもつながるような数学的な感性を育てる。	①教師間の意思の疎通、情報の共有を積極的に行なう。 ②シラバスをきちんと確認し、3年間を見通した授業進度の確保を推進する。 ③各コースに応じた、また各個人の理解力に応じた教材を通して、生徒の達成体験を経験させることで、数学の学習に対する意欲を育てる。 ④数学甲子園、数学オリンピック等に積極的に挑戦することを通し	B	①教科会、資料の回覧などが実施できた。今後、互いの授業研究などをさらに積極的に行いたい。 ②ほぼ計画通りに実施できた。 ③生徒の学力差が顕著になってきており、今後の課題である。 ④積極的に参加する生徒が多く、さらに進めたい。
理科	①自然の事物・現象に関心を持ち、事象を探究する科学的態度を身に付ける。 ②自然の事物・現象について，基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付ける。 ③観察，実験を行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現する力を身に付ける。	①授業では、教科書の内容だけでなく、現代社会における科学技術の発達またその問題点等も話題にし、様々な事象を捉え深く考える機会を与える。 ②基礎的・基本的な知識・技能は，徹底して習得させ，学習の基盤を構築していく。 ③高校1年3学期時に課題研究を行い、実験レポートの書き方を学ばせる。知識・技能の活用を図る学習活動も充実させ，記録・要約・説明・論述といった学習活動にも取り組ませる。	B	新学習指導要領では、学習の基盤の上に，思考力・判断力・表現力等を育むために，観察・実験，レポートの作成など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させることが謳われている。情報化が進んだ現場では、様々なデジタルデータを収集・分析する「スキル」を育み、デジタル教科書、能動学習、プログラミング教育などを活用して「新しい能力」の育成を図る必要もある。
保体	①体力の向上 ②基本技術の向上 ③事故やけがの予防・防止につとめる（特に熱中症） ④オリンピック・パラリンピックについて知る	①授業始まり時のランニングや体つくり運動を積極的に取り入れる ②基本動作の反復練習を根気よく実践する ③体育用具や施設の点検、ウォーミングアップは元よりクールダウンを実践する。また、気温や湿度には特に注意を払い、日陰での休憩や水分補給を心がける。 ④DVDやプリント等の資料を利用しての授業を実施する	B	①担当者によって差があり、積極的な取り組みが必要と思われる。 ②特に1年時の基礎基本の定着ができていない。種目ローテーションの見直しも必要と思われる。 ③授業の後、用具の破損がそのままになっていることがあり、管理の甘さも感じる。休憩時間や水分補給などは計画的に実施できている。 ④課題やプリントなど、工夫する部分が多く見られるようになった。
外国語	①昨年度から実施のアクティブ・ラーニングの高2までの拡大 ②①に関する教授法のさらなる充実 ③高校入試における評価軸の見直し	①昨年から実施したアクティブ・ラーニングは生徒の満足度も高く（役に立つ＝とても思う、まあまあ思うを合わせて93%）、今年度は高2までカリキュラムを拡大し、3学期のディベート大会を目標に教案を作成・実施する ②「話す」の小分野の一つ、「英語で意見を交換する」能力の育成をめざし、「海外チャレンジ塾」で培ったノウハウを移入する ③中学での「話す」スキルへのバイアス化を勘案し、昨年度から開始した高校入試での「リスニングテスト」をより充実させる	B	①②本校独自のカリキュラムを作成し、目標としていた高2時における英語でのディベートができるようになった。12月実施のGTECの結果を心待ちにしているところである。 ③本校入試のリスニングテストでも、非言語情報と組み合わせた問題作成ができた
家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代の社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習、実験内容の精査 ③研修、研究の実施	B	食生活・衣生活を中心に家庭科の基礎基本を身につけるような授業ができた。実習については、被服実習や実技テスト等をはじめ、将来の生活に役立つような内容を取り組むことができた。生活設計についても将来を見通し、一生にお金に関してもそれぞれで調べることができた。
情報	③①に関する教授法の蓄積	①具体的事例を理解の素材とし、情報活用に関わる態度を身につける。 ②教科書にとどまらない、発展的内容を積極的に取り入れる。 ③グループ活動を取り入れ生徒同士の対話を促す。	B	①生徒自ら主体的に興味関心をもつには、まだ個人差が大きい。学習素材の工夫が必要である。 ②科学的理解に関しては発展的な内容を取り入れたが、積極的に取り組んでくれた。 ③グループでの討議や発表を前年度より多く取り入れることができた。

Ａ：大いに改善あり
Ｂ：だいたい改善あり
Ｃ：やや改善なし
Ｄ：全く改善なし